

英時條○北小貳ガ隠謀ノ企ヲ聞テ、事ノ實否ヲ伺見ヨトテ、長岡六郎ヲ小貳ガ許ヘゾ遣シケル、長岡則行向テ、小貳ニ可見參由ヲ云ケレバ、時節相勞事有トテ對面ニ不及、長岡無力、小貳入道ガ子息、筑後新小貳ガ許ニ行向略○中長岡座席ニ著ト均シク、マナナキ人々ノ謀反ノ企哉ト云儘ニ、腰ノ刀ヲ拔テ、新小貳ニ飛デ懸ケル、新小貳飽マデ心早キ者ナリケレバ、側ナル將基ノ盤ヲヲツ取テ、突刀ヲ受留メ、長岡ニムズト引組デ、上ヲ下ヘゾ返シケル、

〔親長卿記〕文明十九年十一月廿九日、召番匠令作將基盤、

〔梵舜日記〕慶長十年正月十八日癸巳、碁盤屋禮ニ、少將碁盤馬ヲ添テ持來也、

寛永七年五月十七日丙申、碁盤盤下疑屋字來、少將碁盤、シラゲ申付、手間一文目五分也、

〔大江俊矩記〕文化七年三月十一日乙丑、將碁盤一面和古物、尺貳寸、厚サ三寸也、夷川道具屋ニ而調吳候由、和田良藏世話也、代錢壹貫四百文也、

〔退閑雜記〕ある人のいふ、江都に火災なくば、なべてさぞ奢に長じぬらん、京大坂などの町々は、すでに調度などもさまざま、風流をなし、家のうちにもかけ物かけ、はななど活たるは、いと多し、江戸の町々、富たるは猶質素にして、おひつゝらなどいへるもの、かたはらに出し、ゆたかなるは、將基などするものもあれど、箱のうらに紙はりて盤とするなど、もの、奢なきは、江戸の火災によると云しなり、

〔雙蝶記〕「蛇くふと聞ばおそろし老女の懺悔

さて塵兵衛は、駕籠のうちに尻かけて、往來の旅人にむかひ、駕籠にめさずや、駕籠々々とよび居たるに、諸社の宮奴に、やとはる、をなりはひとする幣又といふ者、烏帽子に白張をひきかけて、極樂寺の切通しの方より來つ略○中幣又は打笑ひ、昨日星の御堂の軒下で、さしかけた將基の勝負せまいかヲ、昨日の駒組おぼえて居る、錢がとれいで此方も退屈ヲ、慰にさして見やれと、